

医科研病院だより



第7号

発行：東京大学医科学研究所附属病院
平成22年4月15日
〒108-8639 東京都港区白金4-6-1
代表電話03-3443-8111
ホームページ <http://www.transrec.jp/>

CONTENTS

| | |
|---------------|---|
| 医科研病院放射線部門の紹介 | 1 |
| すこやか・カフェ | 2 |
| 栄養サブリ | 3 |
| なんでも・ひろば | 4 |

医科研病院放射線部門の紹介

放射線部 金田 伸一

伝染病研究所時代より使用してきましたレンガ造りの一号館旧病院から新病院に移って六年が過ぎました。放射線関連の機器が分散していた四箇所の建屋から一同に集まり機能的となりました。

放射線部門は放射線科医三名、診療放射線技師四名、技能補佐員一名で構成されています。放射線部門は、病院組織の診療支援部門であり、一般診療と探索的臨床研究の手助けが重要な役割です。そのためには、他部署との連携を強め、チーム医療に貢献できるよう努力をしなければなりません。

当放射線部門には、一般単純撮影装置、CT、MRI、血管撮影装置、X線透視装置、核医学検査装置、放射線治療装置等、多くの放射線関連機器があります。

CTやMRIの検査依頼では、依頼伝票をもとに、前日に放射線科医と診療放射線技師とで検査内容や安全性に関わる事項等の確認を行い、患者様のため、より良い検査を行うよう心がけております。血管撮影は、検査担当者と相談をして随時行っており、X線透視検査についても各診療科の医師と連絡を取り合って速やかに対応しております。胸部撮影や骨撮影などの一般単純撮影においては、患者様対応には十分に注意を払い、状態を把握し、事故のないよう努めております。近年、核医学診療では、RI標識抗体療

法薬ゼヴァリンを用いた放射線治療も行っております。

放射線部門一同は医療安全にも日々努め、安全マニュアルや手順書を作成し、シミュレーションを行って見直しを図る等して、業務遂行しております。

また先端医療機器の性能を常に維持するため、メーカーによる定期点検の他に、部内において現場で行える医療機器の保守点検を日常的に実施し、医療安全の質を高めております。

放射線科・部一同は難病と闘っておられる患者様のため、医科研病院が使命を果たす手助けをできるよう頑張りたいと思っております。

医科研のさくらについて

医科研にも春がやって来ました。キャンパス内には、数は多くありませんが、いろいろな種類のさくらの木があります。3月上旬より開き始める緋寒桜、香りのいい大島桜、3月下旬が見頃の染井吉野、そして4月下旬に満開を迎える八重桜と、順々に咲き続け医科研の春を彩ります。お天気のよい日には、たくさんの方がお散歩がてらいらっしやり、花見を楽しまれています。残念ながら、この医科研病院だよりが発行される頃には、ほとんどのさくらが咲き終わっていますが、八重桜は見頃を迎えるのではないのでしょうか。

来院の際には、医科研内のさくらにも立ち寄って、春の宴をじっくりと楽しませてはいかがでしょうか。あなたの大和心を再発見できると思います。



医科研お花見マップ ～あなたのお気に入りほどのさくらですか？～

大島桜 (オオシマザクラ)
3月下旬から4月上旬頃が見頃。
独特な香りを放ちます。
葉は塩漬にして桜餅に用いられます。

八重桜 (ヤエザクラ)
4月下旬頃が見頃。
遊歩道に沿って数本の八重桜が植えられています。
ベンチやテーブルもあります。

緋寒桜 (ヒカンザクラ)
3月上旬から中旬頃が見頃。
医科研では一番早く咲く桜です。
濃いピンク色で下向きに咲きます。

枝垂れ桜 (シダレザクラ)
3月下旬から4月上旬頃が見頃。
ソメイヨシノより少し遅めに咲くようです。

染井吉野 (ソメイヨシノ)
3月下旬から4月上旬頃が見頃。
特にこの辺りはたくさん染井吉野が植えられており、遊歩道やベンチもあって、ゆっくり桜が楽しめます。

西門

病院棟

正門

すこやか・カフェ



HTLV-1感染症について

血液腫瘍内科・医師 内丸 薫

皆さんはHTLV-1というウイルスを御存知でしょうか？知名度は低いのですが、昨年度約20年ぶりに行われた実態調査では全国で約110万人、全人口の1%程度の方が感染していると考えられているウイルスです。このウイルスは感染しても通常は無症状で、潜伏状態のままほとんどの方には何も起こりませんが（こういう方をキャリアと言います）、キャリアの方のうち約5%の方に成人T細胞白血病・リンパ腫（以下ATLと略します）という血液の病気を引き起こします。テレビ番組などで御活躍だった前宮城県知事の浅野史郎さんが昨年この病気を発症され、公表されたことで一躍有名になりました。

○HTLV-1によって起こる疾患

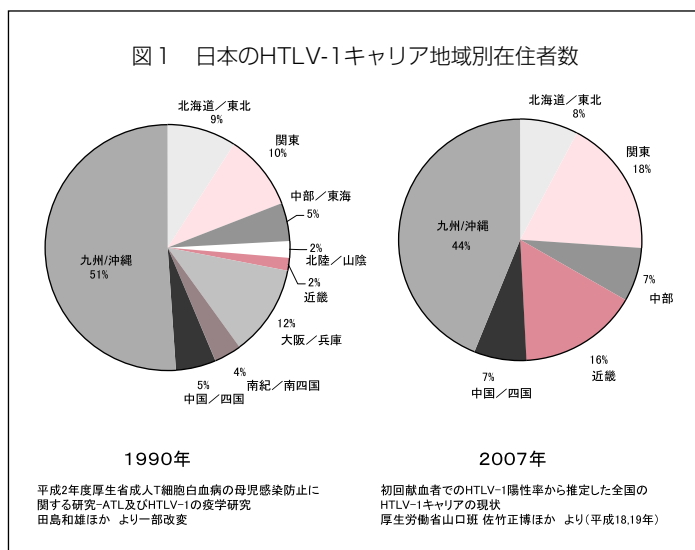
HTLV-1キャリアに発症しうる疾患は上記のATLと足の麻痺を主症状とするHTLV-1関連脊髄症（以下HAM）、急激に目が見えなくなるHTLV-1関連ぶどう膜炎（以下HU）の3つが知られています。ATLは上記の通り、キャリアの方から発症されるのは全体の5%程度と考えられています。発症した場合は抗癌剤による化学療法を至急開始する必要がありますが、化学療法による治療成績は必ずしも良くないのが実情で、治療成績を向上させるため造血幹細胞移植（骨髄移植）も試みられており、我々もこれに取り組んでいます。抗体薬剤など新規治療薬の開発も進められています。HAMは発症率が非常に低く、全キャリア中の0.5%以下程度と考えられています。足が突っ張ったようになり次第に麻痺するとともに、排尿や排便の障害を起こすのが特徴とされています。HUは急激に視力を失っていく疾患ですが、適切な治療をすることで通常は元通りに戻ります。ただし半数以上の症例で再発を繰り返す所が厄介な点です。こちらはキャリアの方の2~3%程度に発症すると推定されています。

○HTLV-1の感染ルート

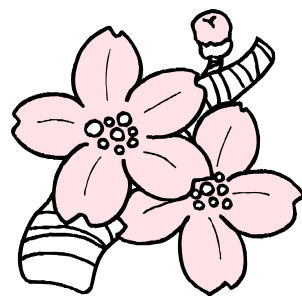
現在感染ルートは母児感染と性感染の2つで母児感染が主なルートです。かつては輸血による感染があったと推定されていますが、1986年以降献血のスクリーニングが行われ、輸血による感染はなくなっています。母児感染はキャリアのお母さんの母乳を介して赤ちゃんに感染します。通常通りに授乳した場合の児への感染率は20%程度とされています。キャリアとわかっているお母さんは断乳をすることにより児への感染をほとんど防ぐことができます。性交渉によっても感染することが知られており、一般的に男性から女性に感染するとされていますが、一部女性から男性への感染例もあるようです。コンドームの使用により感染は防ぐことができます。

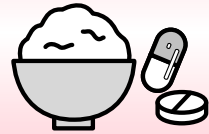
○HTLV-1キャリアの国内分布

日本は世界の中でもキャリアが多い地域の一つですが、日本の中でも分布は非常に偏っていて、かつては九州、沖縄に全キャリアの半数以上が在住していました。そのため風土病的なとらえ方をされ、全国的な対策が遅れてきた実情があります。しかし、人口の移動に伴い東京、大阪など大都市圏居住者の占める比率が次第に高くなっており（図1）、全国レベルでの対策が急務となっています。HTLV-1の主要感染ルートである母児感染を防ぐため、妊婦検診でHTLV-1の感染をチェックするのは重要な対策の一つです。長崎県など九州地区は対策が進んでいる所がありますが、首都圏地区にも十数万人のキャリアの方が在住すると推定され、全国規模での対応が現在検討されています。また、キャリアと判明した方々に対するコンサルテーションなどの対応をする拠点の整備も必要になります。



当院にはHTLV-1キャリアの方のご相談、ご指導をさせていただき専門外来が設置されています。HTLV-1キャリアと判明した方は是非一度受診してみてください。





是非ご堪能あれ！ 春の味覚

栄養管理室

な はな 菜の花

春の早い時期に店頭並びます。
アブラナ科アブラナ属。

旬 1月～3月。

冬に成長して春一番に開花する野菜。

食べ方 軽く茹でて氷水にさらし、すぐに上げます。
お浸し、辛子和えやお吸い物の具、天ぷら、
野菜炒めなど幅広く使えます。あさりと菜の花
で、春の Pastaなんていうのはいかがですか？



う ど 独活

鮮烈な香りとシャリシャリとした歯ごたえが春の
野山を感じさせます。ウコギ科タラノキ属。

旬 寒中でも芽が出て11月～2月出荷される寒ウド
と、3月～5月に発芽して出荷される春ウドがあり
後者の方が軟らかく香りも良いようです。

食べ方 やはり生がおすすめ！拍子切りにして、
味噌や梅肉をつけていただきます。
アクが強いので、皮を厚めにむき酢水につけます。

～ ちょっと意外な話 ～



ある八百屋さん情報によると、実は年中出荷されている
か！？店頭で滅多にお目にかかりませんが、料亭などで
会えるようです。気になるお値段。春ウドで500円/kgくらい、
冬の寒ウドでは800円/kgほどになるそうです。

め たらの芽

別名、“山菜の王様”“天ぷらの王様”。
ウコギ科の「たらの木」の芽です。

旬 野生のものは4月～6月の上旬が食べ頃。
芽が5cmくらいの時が香りがあり美味しい。
最近は栽培ものが多く、3月に多く出荷されます。

食べ方 芽の付け根にある茶色いハカマは取って
調理します。なんといっても天ぷらが
おすすめ！揚げ過ぎないのが
美味しくさせるコツです。

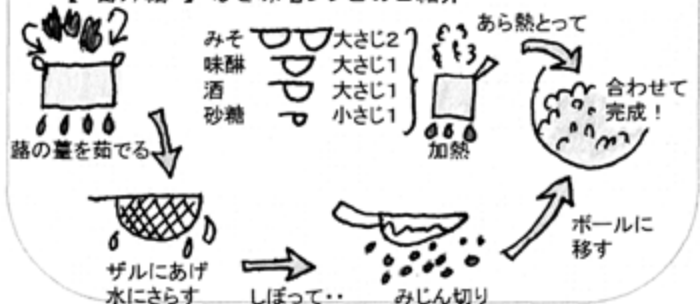


ふき とう 落の萇

雪解けを待たずにいち早く出てくる山菜です。
独特の香りとほろ苦さを楽しめます。
キク科フキ属の多年草。

旬 全国の山野に自生し関東近辺の平地では
2月～3月。山地では3月～4月です。

食べ方 天ぷらや煮浸し、油炒めなどにします。
→【番外編】ふき味噌レシピのご紹介





医科研テニスコートの思い出

検査部 源 不二彦

私は昭和53年4月16日、医科研に採用が決まり、出勤初日に初めて購入したテニスラケット持参で、医科研の門をくぐった日をついこの間のように思い出されます。

当時の検査部は本館現プロジェクト經理の場所に一般・血液検査室、2階セミナー室東側に生理・血清の各検査室、3階西病棟（現空き部屋）に生化学・細菌・病理の各検査室がありました。昭和54年病院B棟の地階部分（柱だけの空間）を改装し、生理検査室を除き現在の検査部のベースとなる中央検査部が発足しました。その後新病院開設後、利便性を考慮してB棟全体をリニューアル、1階フロアーに移設し現在に至っています。さて、本題のテニスコートは入所当時、現在のインターナショナルロッジの場所にクレートコート1面と壁打ちのボードがあり、初心者や院生等はコンクリートコート、ベテランと上級者はクレートコートと歴然としたすみ分けがありました。私にとってコートは一つの社交場で、院内の他部署の方のみならず、事務部、基礎研究部の面々との人脈形成に役立ちました。所内リクリエーションの年次行事としてのテニス大会他、運動会とソフトボール大会（現総合研究棟と病院A棟は以前グラウンドでした）、卓球大会、スキーツアー等組織横断的に全所の老若男女が集い、所全体がアットホームな雰囲気を持っており、古き良き時代の一ページでした。

そのテニスコートは2度試練を乗り越え、現在の立派なオムにコートとして生まれ変わりました。一度目は昭和58年頃だったと思います。インターナショナルロッジ建築に伴うコートの廃止で、その当時は基礎研究部の教官各氏が教室全体で盛んにテニスをしていた時代で、教官を含むテニスクラブ員が廃止されるコート2面の代替案を出し、南北に位置していたクレートコートの場所を東西にかなり窮屈なコートでしたが、クレートコート1面とハードコート2面

の3面確保しました。そして最大の試練は総合研究棟と新病院建設に伴うコートの完全廃止でした。

時期を同じく景気低迷、独法化等、所もその煽りをもろに受けたのか、テニスコート再建の話も頓挫、テニス愛好家はテニス難民と化したためクラブは解散状態でした。テニスフリークは公共のテニスコートを確保しつつ細々と活動していましたし、全官医科研チームはそれにめげずにオール東大とてメンバーを確保しつつ、参戦していました。その苦難を体験した結果、5部から順当に勝ち上がり2部昇格、一昨年3部降格も昨年度に2部返り咲きを果たしました。昨今の事情を鑑みつつテニスコート復活にご尽力頂いた諸先生方、事務関係者の方々にあらためて感謝申し上げます。

思い起こすにコートが廃止されるまでの時代が医科研テニスの最盛期だったような気がします。クラブ員は40名を超え、年次行事の医科研ミックスダブルス大会に飽き足らず、レベルアップに伴い対外試合への参加も春・秋の実業団（旧事業所対抗）対抗試合、現在も参加し続けている全官庁対抗テニス大会とその実力を試す機会を求めました。また、何組かのロマンス（死語でしょうか）も誕生し、大いに厚生施設としての役割を十二分に発揮した時代でした。

私は正式な所員としては後2年を残すのみとなりました。医科研の32年の人生は私にとってテニスとともに歩んできた人生でした。繰り返しになりますが、所内の多くの方々との接点は仕事だけでは構築しえないものでし、一つの財産と思っています。

昨年末から、事務の宮坂さんが発案され初心者を対象にレッスンを開始しました。私も微弱ながらお手伝いさせていただいています。現在コンスタントに二十数名参加者があり、ここ十数年希薄だった基礎研究部の方との接点も生まれました。

医科研唯一の厚生施設であるテニスコートを通じ、仕事の気分転換と人との接点、健康に役立たせましょう。私の学生時代にマニアックですが寺山修二の「書を捨て街に出よう」と云う小説がありました。

時に「聴診器・メス・試験管・ピペット・PC・コピー機を捨てテニスコートに出よう」

東京大学医科学研究所附属病院・ご利用案内

診療科

- 内科（総合、血液腫瘍、感染症、リウマチ・膠原病、代謝・内分泌、循環器、消化器）
- 小児科（小児細胞移植）
- 外科（一般、腫瘍、消化器、乳腺）、整形外科（関節）
- 放射線科、麻酔科、遺伝相談

外来診療日

月曜日～金曜日（祝日および年末年始を除く）

診療受付時間

- 8：30～11：30（初診・再診）
- 12：30～16：00（再診のみ）
- ※予約時間の15分前までに受付にお越しください。
- （確実にご受診いただくために、ぜひ予約をお取りください）
- 予約専用電話（予約受付および変更）
- 診察：03-5449-5560
- 検査：03-5449-5355
- 受付時間 8：30～17：00（外来診療日のみ）

アクセス

- 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線で「白金台駅」下車
- JR 山手線目黒駅東口から都バス品93大井町競馬場行で「白金台駅」下車、あるいは都バス黒77千駄ヶ谷行か橋86新橋駅行で「東大医科研西門」下車、または駅より歩いて約15分、タクシーで約5分（1メーター）
- JR 品川駅から都バス品93目黒駅行で「白金台駅」下車
- 東京メトロ日比谷線広尾駅から都バス広尾橋から黒77または橋86目黒駅行で「東大医科研病院西門」下車
- ※患者専用駐車スペースも数台分ございます。ご利用は受付にお申し出ください。

